

# 社会貢献を目指した高校生ボランティアのあり方における一考察

鈴木真帆\*1

ドゥラゴ英理花\*2・三岡恵子\*2・草野昂志郎\*2・竹内一樹\*2

Email:10238maho\_suzuki@gr.shotoku.ed.jp

\*1聖徳学園中学・高等学校3年

\*2聖徳学園中学・高等学校

◎Key Words, 高校生ボランティア, 社会貢献

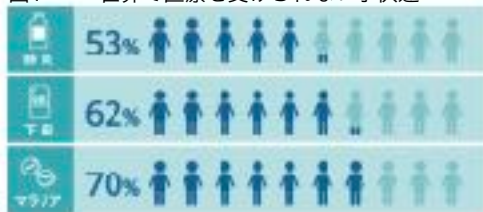
## 1. はじめに

私は中学1年生から生徒主体のボランティア団体である「国際交流ボランティア」に属している。国際交流ボランティアとは、「聖徳学園と世界をつなぐ」をモットーに、海外との交流や社会貢献活動、校内イベントの企画運営を行なっている。中学生の頃は先輩が企画したイベントに参加するだけで、自分から何かアクションを起こすことはなかったが、高校に進学し団体内でも高学年になり、発案から実行まで全て自分で企画し、社会貢献をしようと決意した。

## 2. 問題の所在

世界には貧困や地球温暖化、教育格差など様々な課題がある。私はその中でも、医療の課題に注目して企画の発案を行なった。<sup>(1)</sup>日本ユニセフ協会によると、サハラ以南の諸国では、病気になっても適切な治療を受けられない子供が過半数を占めている(図1)。つまり医療にアクセスできている子供は半分にも満たない。さらにマラリアに関しては3割しか医療を受けられていない。

図1 世界で医療を受けられない子供達



サハラ以南のアフリカ諸国で。

資料元「UNICEF DATA」でもっとも命を失われる12歳未満の子供の死因をみている。

出典:UNICEF DATA( Pneumonia 2016, Diarrhoea 2011-2016, Malaria 2013-2015 )

人道医療支援に取り組む国際NGOである「特定非営利活動法人 メドゥサン・デュ・モンド ジャポン 世界の医療団」(以下世界の医療団)は、国籍、人種、民族、思想、宗教などあらゆる壁を超えて、世界各

地で「医療」から阻害された人々の支援にあたっている。世界の医療団のような団体があるのにも関わらず、なぜ医療を受けられない子供がこんなに多くいるのだろうか。私は活動資金の不足が要因の一つにあると考えた。医療には莫大な費用が必要である。活動資金が増えれば世界の医療団の活動がより活発になり医療を受けられる子供が増えるのではないかと考えた。

## 3. 主旨

私は初めての企画に、世界の医療団が主催している「グラムウォッチチャリティー」を選んだ。グラムウォッチチャリティーは腕時計を集めるプロジェクトで、寄付された時計はリユース品として販売、もしくは時計の部品として販売される。そして時計1g=1円相当の寄付金が世界の医療団の活動資金になる。支援やボランティアには募金や物資を贈るなど様々な行い方がある。その中でもグラムウォッチチャリティーを選んだ理由は、身近なもので支援ができるからだ。このプロジェクトは、壊れている腕時計も対象である。壊れている時計を寄付することは、募金をするためにお財布からお金を出すよりも、ハードルが低いように感じた。また世界の医療団は回収ボックスを用意していたため、学校側での初期段階での準備は少なく済むので取り組みやすい。そこでグラムウォッチチャリティーの実施を国際交流ボランティアのメンバーに発案をした。

## 4. 活動内容

活動は2022年3月から6月の3ヶ月間、聖徳学園の生徒と保護者、職員を対象に行なった。まずプロジェクトの概要を説明し、企画を進める許可を得た。その後は、世界の医療団に、本校の国際交流ボランティアの活動内容と団体についての紹介と校内でグ

ラムウォッチチャリティーを実施したいという事を申し出た。世界の医療団からは、私たちの活動に興味を持っていただき、グラムウォッチチャリティーだけでなくさらに他のプロジェクトの提案も受けた。メールのやり取りをくり返し、他のプロジェクトの詳細とチャリティーボックスの設置についての説明をオンラインミーティングにて行なった。オンラインミーティングで設置する日や回収する日などを決定し、想定している広報の方法を報告した。具体的な詳細が決定してからは、設置の日に間に合うように広報用のポスターを作り始めた（図2）。

図2 広報用ポスター



作成したポスターは学校内の連絡用アプリであるTalknoteを利用して聖徳学園の全員に顧問を通して配信をした（図3）。

図3 Talknoteを使っでの広報



チャリティーボックスは生徒や職員が主に利用する昇降口の階段横に3週間設置した（図4）。

図4 設置したチャリティーボックス



また学園全体の社会貢献意識を向上させるには、幼い頃から経験できる機会を得ることが有効だと考えた。そこで同じ敷地内に設立されている小学校でもグラムウォッチチャリティーをはじめとした社会貢献活動や交流会などを実施するボランティア団体「ジュニアボランティア」を設立しようと試みた。そのため自ら小学校の職員と関係を築き国際交流ボランティアの顧問と繋げ、顧問を通して小学校の校長先生に交渉をしたが、新型コロナウイルスが流行していたため断念した。

## 5. 結果

寄付された時計は合計で5.2g集まり5,200円が世界の医療団に送られた。(2)世界の医療団(2022)の報告書によるとパレスチナ自治区ガザ・ヨルダン川西岸では5,055人が保険医療を受益し、ウクライナでは15,143回移動診療者による診療が行われた。

また、友人や先生方から「破棄が寄付に変わる事を知り、ボランティアに対するハードルが下がった」と意見が寄せられたことから、社会貢献活動やボランティア活動に対する生徒や職員の印象を変えることができたと言えよう。(3)さらに今回の活動を世界の医療団のホームページに載せていただくことができた。

## 6. 今後の課題と展望

今回実施したプロジェクトではチャリティーボックスを、聖徳学園中学・高等学校の校舎内に設置した。しかし小学校や幼稚園にも視野を広げ、対象を聖徳学園に所属しているすべての人々に設定することでより沢山の時計が集められたであろう。今後チャリティーなどの量が重視されるボランティア活動を行う際は対象幅を広く設定し、一人一人が寄付する量が少なくても量が集まるように工夫しようとする。今回のように学内の組織を巻き込むことのできるプロジェクトを今後も企画していきたい。

## 謝辞

本プロジェクトにご協力していただいた聖徳学園の生徒の皆さん、保護者の方々、先生方、そして本論文をご指導いただいた先生方に感謝申し上げます。

## 参考文献

(1) 公益財団法人 日本ユニセフ協会 「いま、この瞬間にも。救える命がたくさんあります。」  
<https://www.unicef.or.jp/special/19sum/>  
(2024年6月26日閲覧)

(2) 特定非営利活動法人 メドゥサン・デュ・モンド  
ジャパン 世界の医療団(認定NPO法人)「2022年活  
動報告書」 <https://www.mdm.or.jp/aboutus/japan/>  
(2024年6月27日閲覧)

(3) 特定非営利活動法人 メドゥサン・デュ・モン  
ドジャパン 世界の医療団(認定NPO法人)  
<https://www.mdm.or.jp/news/24582/>  
(2024年6月27日閲覧)